

令和5年度 大明小の教育について(保護者アンケート)の結果とまとめ

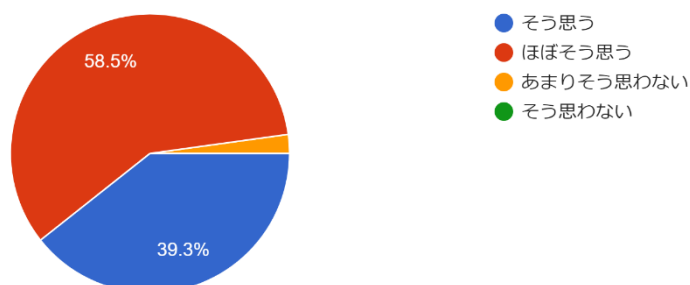
調査対象人数：家庭数 231 軒 回答数 183 軒 回答率 79.2%

調査実施時期：令和5年12月6日(水)～12月20(水)

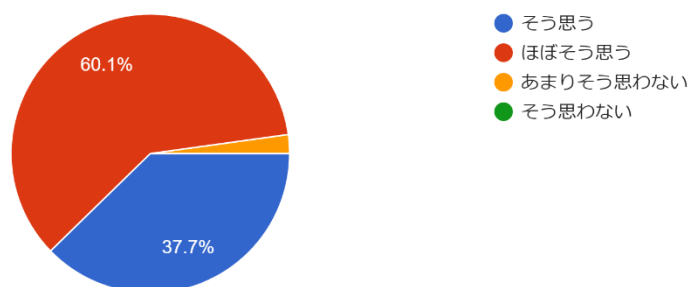
今年度、評価項目の検討を行った。一部の評価項目は、教職員自己評価項目と児童アンケート項目との共通化を図り、結果を比較、検討できるようにした。

学校経営・運営

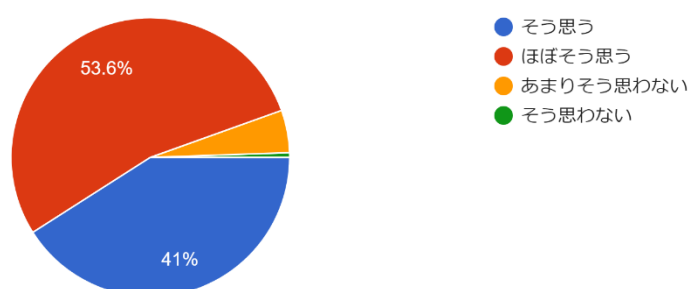
1. 学校は、地域や保護者の期待や要望をくみ取り教育方針や重点的取り組みを設定し、教育活動に取り組んでいる。



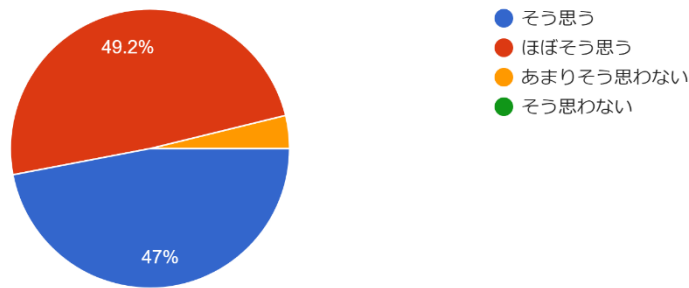
2. 学校は、教育活動に適した施設・設備が整っている。



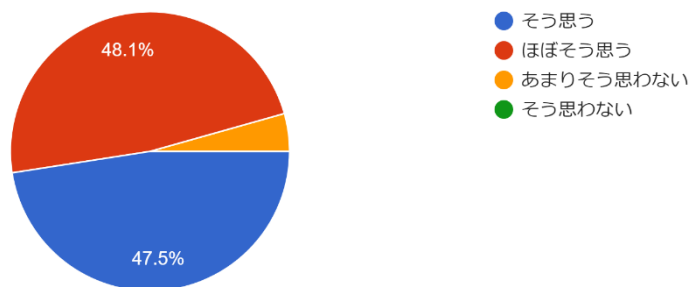
3. 家庭と学校は、連絡や意思の疎通が図られている。



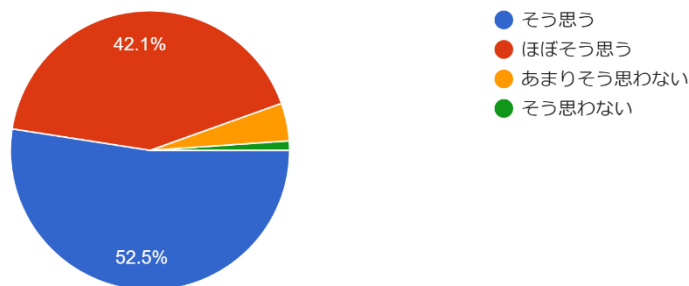
4. 学校からの文書や連絡等は適切である。



5. 学校は、地震・災害・不審者対策をよく示している。



6. 子どもは、学校に行くことを楽しみにしている。



【いただいた御意見】

- 学校開放日が自由に出入りができすぎて、不審者等の対策が少し心配です。防犯カメラや先生方の目があるとは思いますが、やはり校内に自由に出入りできるのは不安があります。(個別懇談の時にも感じました)
- 学年だよりを紙でも欲しい。
- 小学校でいろいろなボランティアをされているグループがあるようで、子どもたちには紹介の機会があるようなのですが、保護者が知る機会がないように感じます。保護者にも教えてもらえる機会があると嬉しいです。
- 子どもたちは、学校に行くのがとても好きで楽しんで行っています。学校に行くことで、成長も感じることができています。先生方に感謝しております。
- 子どもが毎日楽しそうに登校しているのを見ると、嬉しくなります。日々できることが増えていき、自信にも繋がっているようです。懇切丁寧なご指導を本当にありがとうございます。
- 文化発表会の本番は行けなかったけど、リハーサルを見ることが出来て嬉しかったです。

- 運動会、1年生の内容が幼いように感じました。幼稚園や保育園で年長児でももう少しレベルの高い内容です。リレーも真ん中にピストル係や写真撮影の方がいてとても見にくく残念でした。また、低学年であってもトラック半周づつ走ることは可能なように感じました。
- 文化発表会、インフルエンザで日時が変わり解放日と重なったことはとてもありがたかったです。同じ月に何度も仕事を休むことが難しいのですが、授業の様子は観覧したいし。発表会と解放日が同じだと一日で全てできて良かったです。
- 毎年何らかの形でアンケートに答えているが反映されていない。

【アンケートからの考察】

〈設問1・2〉

保護者や地域の期待や要望をくみ取った教育方針や重点的な取り組み、教育活動に適した施設・設備については、97%以上の保護者が肯定的な回答をいただき、学校の教育方針や取組について、理解していただいていることが分かった。各行事に対しての要望等について御意見としていただいているので、来年度の行事の際に検討できるようにしていきたい。今後も、保護者の方の声をより丁寧に聞き取り、児童一人一人が輝ける教育活動を展開していきたい。また、教育施設や設備についても、充実した教育活動が行えるよう適宜整備していきたい。

〈設問3・4〉

学校からの連絡や家庭との意思の疎通に関しても95%前後の保護者の方が肯定的に回答している。担任の先生方が、学校での児童の様子などを丁寧に家庭に連絡したり、対応したりしている結果でもあると捉えることができる。今後も、学校での教育活動の様子は、HPや学年だより等の充実を図り、家庭に伝えていくようにしていきたい。また、安心安全メールの活用にも充実も図っていきたい。今年度より、学年だより等を安心安全メールでも配信するという取組を行っているが、紙でも配付してほしいという意見もあるため、しばらくは、紙媒体とメール配信の両方で配付していきたいと考える。また、学校に関わってくださっているボランティアの方々についても、積極的に家庭への紹介していきたい。

〈設問5〉

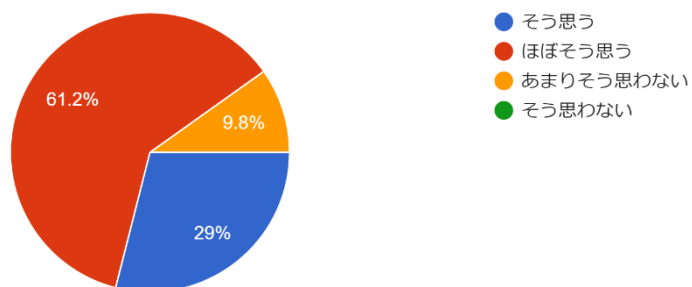
学校開放日や行事の際の学校への出入りについて、不安に感じている保護者の方がある。「開かれた学校づくり」と不審者対策は、常にジレンマを抱える問題である。特に、今年度からは、コロナ禍の来校者制限もなくしたので、開放日等の不審者対策について検討していきたい。児童や教職員の危機管理の意識も高めるとともに、対応訓練も充実させていきたい。また、保護者証の持参について徹底を呼び掛けていきたい。

〈設問6〉

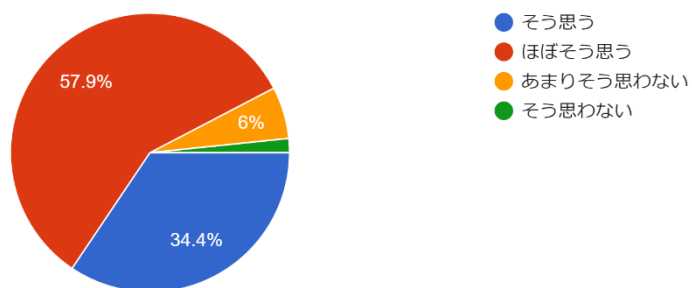
「学校が楽しい」という肯定的な回答が94.6%となっているが、否定的な回答も若干ある。児童のアンケートでも、同じように否定的な回答をしている児童が若干名いることも事実である。学級担任を中心に連携して学校全体で組織的に対応していく。児童の気持ちや体調の変化を見逃さずに、より丁寧な対応や指導・支援を心がけ、多くの児童が「学校が楽しい」と感じられるようにしていきたい。また、保護者の方とは、連絡を密にとり、児童の対応に生かせるようにしていきたい。

学習・生徒指導

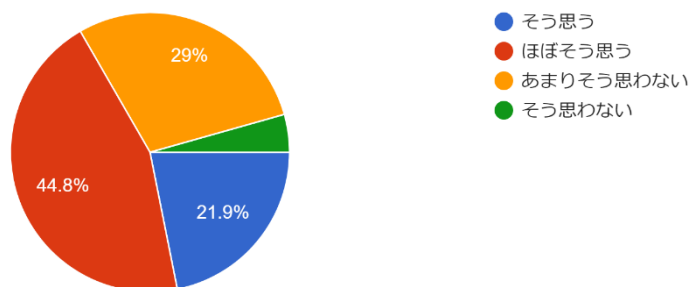
7. 子どもは、授業を十分に理解している。



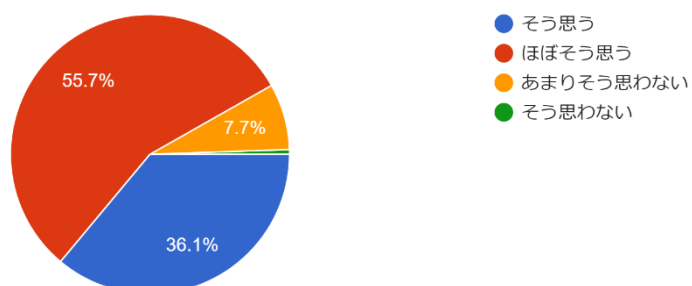
8. 学校は、子どもの学力を向上させるための取組や学習内容の理解をさせるための手立てや支援を行っている。



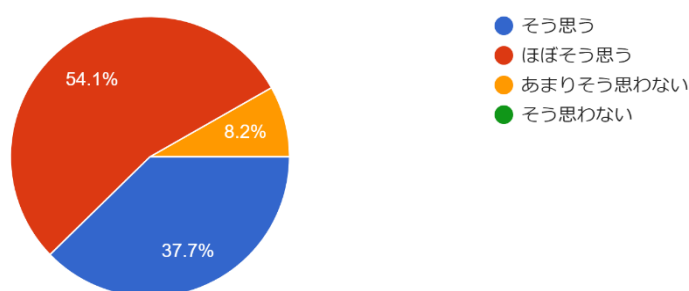
9. 子どもは、家庭学習に意欲的に取り組んでいる。



10. 学校は、子どもについての悩みや心配事に適切に対応している。



11. 学校は、子どもたちの気持ちを理解し、温かい雰囲気づくりを行い、「いじめ」の防止に努めている。



【いただいた御意見】

- 宿題の数が多く家庭の負担をとっても感じています。子供も数をこなす。となっていていやいややっているのももう少し考えてもらいたいです。
- 学力の向上について、宿題があつという間に終わってしまうので、もう少しボリュームがあってもできそうな気がします。自主学習の姿勢も習慣化できるとなお良いと思います。自主学習週間のように記録しなくても、毎日宿題以外の勉強をするのが当たり前となるように学校でも声をかけていただけるとありがたいです。
- 家庭学習が多く、時には泣きながら勉強をしています。それが学力向上になっても はたして子供の精神の安定など内面の向上に良い影響があるのかが疑問です。また、いじめに関しても日本の考え方の偏りや先生方にもよると思いますが、被害者にも原因があるような考え方は決してしてはいけないと思います。
- 大明小学校は、熱心な先生ばかりでありがたいです。
- 子供達のことを理解してそれぞれに対応してくれて、何かあったときには連絡くれて相談にもものって頂けるので感謝しています。勉強面も先生が調べてその子にあった方法で対応してくれているので、子供も安心して勉強ができていますので本当に助かります。
- 成長と共に友達関係での悩みや心配事が出てきますが、とても細やかに対応していただけているので親子共々安心しています。家庭学習の取り組み方は家でも指導していきたいと思います。
- 担任の先生はノートで相談したことがあると、次に学校で会った時に声かけしてくれてすごく心強いです。校長先生も子どもが話しやすいみたいで助かっています。
- 日頃から丁寧に指導や関わりを持って下さりとても感謝しています。
- 良い先生達に巡り会えてとても感謝しています。
- いつも親身になって子ども達のことを考えて下さって大変ありがたいです。
- 子どもが、怒られるからいいやと先生に相談できる雰囲気がない。高学年になると、もっと相談できないことが増えてくるので、仲良しの友だちと一緒にクラスになって楽しく過ごして欲しい。やりたいことに挑戦して、イキイキとした学校生活を送ってほしいです。
- 先生が子供に対して冷たい言葉をかけることがあったり、子供の話を聞かずに一方的に怒ることがあったのが残念だった。
- 一生懸命関わって頂いていると思いますが、先生の専門的な力がもっと欲しいです。子ども理解、集団のまとめ方、1人ひとりが主体的になれるような役割を与える機会作り、授業の理解度アップなど。大変なのは重々承知しております。
- 運動会の日、ピストルの音が苦手な息子。綱引きは耳栓とヘッドフォンをつけて参加。苦手なことは1年生から伝えていた。練習が始まる段階で説明が欲しかったし、苦手な子ができる子達に合わせる環境に違和感を感じる。どうやったらみんながいい気持ちで参加できるのか子ども達に投げかけても良いのでは??とも思った。克服していくかもしれないが、こどもたちに投げかけることで、色んな子がいる理解が生まれるのでは??と思う。

【アンケートからの考察】

〈設問 7・8〉

設問 7 を肯定的に回答している保護者は 90.2%、設問 8 を肯定的に回答している保護者は 92.3%であった。日々の授業改善の取組や校内研究での授業づくりの取組を一定程度理解していただいている結果であると捉えることができる。児童が学習内容を理解することや学ぶことは楽しいと感じることで、「学校へ行きたい、学校が楽しい。」という思いにつながると感じるので、さらに、教職員一人一人が授業の質を向上させるよう努めていく。また、授業で取り組んでいることや授業の様子について、さらに家庭へ伝えるようにしていく。保護者の皆様にも、授業の進め方やお子さんの様子について、気づいた点などは担任にお伝えいただくようにし、教職員の授業力向上につなげていきたいと考える。

来年度以降、高学年を中心に教科担任制についても推進し、多くの教職員が児童に関わり、一人一人の児童の確かな学力の定着を図っていききたいと考える。

〈設問 9〉

肯定的な回答が 66.7%、否定的な回答が 33.3%であり、今回のアンケートで、否定的な回答が一番多かった項目である。いただいた御意見も多く、「宿題が多い」という意見と「少ない」という両方の意見があった。宿題については、学年、学級の実態に応じて担任が考えながら出しているが、一人一人の児童の状況に応じて、感じ方に差があるのが実情である。宿題や家庭学習についての考えを家庭にももう少し丁寧に説明していく必要があるかもしれない。高学年になるにつれて、自分に必要な学習や家庭学習を考えて自主的に取り組むことができるようにしていくことが理想である。その状態を目指して、学年や児童一人一人の発達段階、取組の状況を考えて、宿題や家庭学習の取組を進めていきたい。また、保護者の方にも協力が得られるよう、学校の考え方を丁寧に説明していきたい。

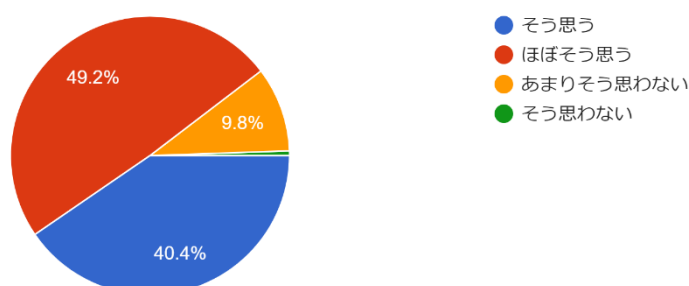
〈設問 10・11〉

設問 10、11 ともに、肯定的に回答した保護者が 91.8%となっている。いただいた御意見にもあるように、「子どもの悩みや相談などに丁寧に対応していただいてありがたい。」と感じている保護者の方が多くいて、担任の先生方が保護者の方と綿密な連絡を取り、児童の指導支援にあたっている成果であると考え。しかし、少数であるが、否定的な回答をしている保護者の方もいるので、今後の課題として対応していきたいと考える。その日に学校であったことなどをその日のうちに御家庭にお知らせしていただくようにし、家庭と学校が同歩調で児童を中心とした対応を心がけていきたい。

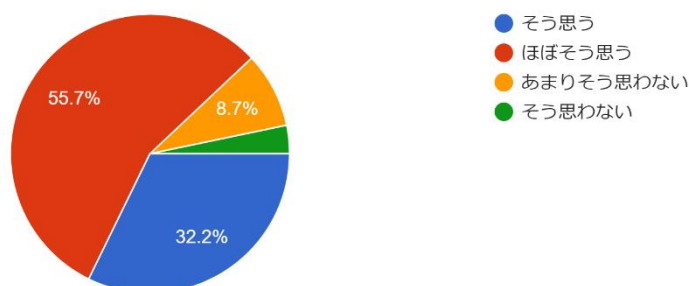
また、「いじめ」に関しても、児童の気持ちに寄り添い、「早期発見・早期対応・再発防止」をキーワードに、どの子も笑顔で活動し、満足して下校できるような指導支援に努めていきたい。

生活習慣

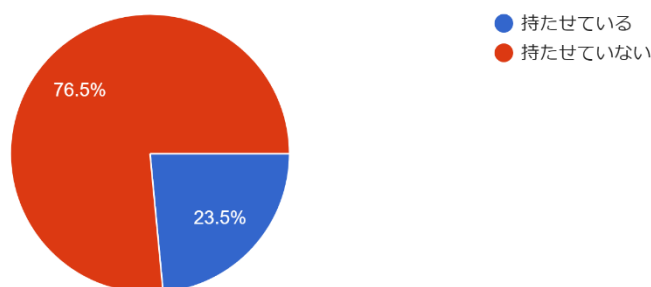
12. 子どもは、「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的習慣が身についている。



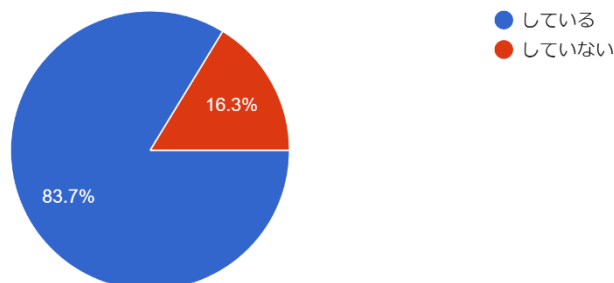
13. 子どもたちは、家庭や地域の中で、あいさつをしている。



14. 子どもに携帯電話を持たせている。



15. 携帯電話を持たせている場合、家庭で携帯電話のルール作りをしている。



- 子供達からすすんで元気よく挨拶出来るようになれば、不審者対策にも地域の活性化にもつながると思う。
- 給食着ですが、汚れが付いたまま1週間着続ける中での食事は不衛生だと思います。服を汚さないための給食着なのか、配膳時の衛生面を保つための給食着なのかよくわかりません。毎日着て食べるのであれば毎日持ち帰るべだし、そもそも、真っ白の給食着を子どもが汚さずに使うことは難しいのでは？

【アンケートからの考察】

〈設問 12・13〉

多くの児童が、規則正しい生活習慣が身についていると考えられる。しかし、1割ほどの児童に改善が必要であることがうかがえる。家庭との連携をさらに進め、児童の生活習慣の確立に向け、今後も継続した取り組みを行っていきたい。

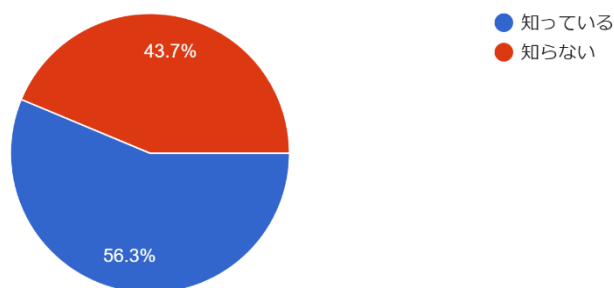
挨拶も、児童、教職員とほぼ同程度の結果となっている。学校でのあいさつはできても、地域の中に入るとできないという状況も見受けられる。まずは、学校で、明るく元気な挨拶ができるようにし、地域の中でも、児童自らあいさつができるように学級・学年・児童会などで取り組んでいくようにしたい。保護者の御意見にもあるように、あいさつをすることで、温かい気持ちが広がっていくような取組が地域と連携して進めていけるとよいと考える。

〈設問 14・15〉

昨年度、同じ設問に対して、持たせていると回答した家庭が 18.8%であったが、今年度は、23.5%となっており、5%近く増加している。持たせていると回答した家庭の 83.7%は、ルールを決めて使用しており、これも昨年度より若干であるが増えている。多くの御家庭で携帯電話使用の際のルール作りに御理解・御協力をいただいていることが分かった。しかし、16%程度 of 家庭がルール作りをしていない状況もあるため、今後も、ルール作りについて呼びかけを行っていく。また、児童に対しても、情報モラル教育をさらに推進していく必要性があると考えている。

小中一貫教育

16. 本年度より小中一貫校としてスタートしましたが、小中の取組について知っていますか。



【アンケートからの考察】

〈設問 16〉

小中一貫校としてスタートしたばかりということもあり、知っていると回答した方の割合は、56.3%であった。今後も HP やお便りなどで、小中の取組について、積極的にお知らせしていけるようにする。そして、中 1 ギャップの解消に向け、学校と家庭が連携して取り組んでいけるようにしていきたい。